

SSKA
東腎協

91年1月25日

No. 86

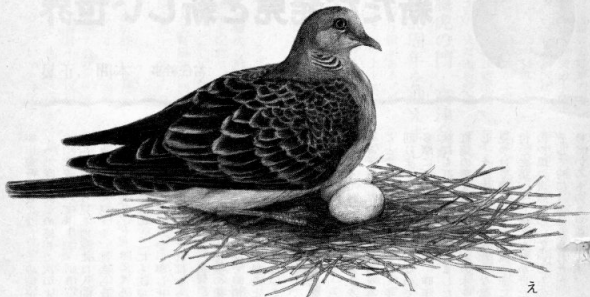
東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒161 東京都 [REDACTED]

郵便振替口座 [REDACTED]

電話・FAX [REDACTED]

昭和四十一年八月七日第三種郵便物認可
 SSKA通巻一七六六回
 一九九一年一月十六日発行
 毎月六回発行
 発行



え・大森
輝秋

●おもな記事●

- 患者会20周年を迎えて…………… 3
- 上野・小金井公園でキャンペーン…………… 4
- 医学ニューススポット…………… 8
- 都民の集い開催…………… 10
- 学習交流会を開く…………… 18
- 現代イソップ物語「のろま」…………… 21
- なかまのたより…………… 24
- 関東ブロック会議、全腎協20周年行事…27

次のリレーエッセイを書いて欲しいと、東腎協の会報編集委員会から連絡を受けたのは、昨年の十一月末の頃であった。その時の手紙には、原稿の締め切りが二月末日までと書いてあったようだ。ところがこれは私の思い違いで十二月末日が締め切りだと後で事務局から知らされた。先の手紙を良く見ると確かに十二月末日締め切りと書いてある、十二月の一の数字を「括弧」と読んだ私の見間違いだっただけだ。この事から物を見ると言うことについて私なりの考えをいろいろ書いてみます。

物の見方については、大局的な見方と小局的な見方があります。大局的な見方は全体を大きく見ることです。そうすると、今まで見えなかったものが見えたり、また見えていたものが見えなくなったりします。

私は仕事を始める前に、まず深呼吸をしてから机一面に図面を掲げます。次に立ち上がったて全体を眺め、それから作業を始めることにしています。この様にすると仕事の手順がよく見えるのです。

昨年十二月にTBS東京放送の秋山記者が日本人として初めての

リレーエッセイ

新たな発見と新しい世界

常任幹事 本間 正良



宇宙飛行をしました。その時宇宙から地球を見ての感想で次のようなことを言っていました。

「宇宙から見る地球には人間の営みが小さく見える、都会も夜のネオンの明かりが見えるくらいだ、そして地球のどこにも国境線というものが無い、争い事は止めて人間は仲良くしなければならぬ」と思う」と。

私達の住んでいる大都會の東京も小さく見えるし、地図で見慣れている国境線も宇宙から見ると地球のどこにも引かれていないことなど、当たり前なことなのだが大局的な立場から全体を見るとよくわかるものです。

ところで目を転じて地球上を見てみよう。私の趣味は写真を写すことで、あちらこちらとよく歩き回ります。自宅が青梅市なので奥多摩にはよく出かけます。昨年の秋にも紅葉を撮影に行きました。

紅葉の葉を写す時は一本の木を探し、その中から一番きれいな葉を見つけて撮影します。真っ赤に色付いた葉、少し赤くなりかけたものや黒い斑点のついているもの、そして時には虫に食われたか、欠けているものも見られます。この

様に良く見ると紅葉にも、いろいろな表情があるのがわかります。また花の接写では、いつも見慣れている花にも、こんなところがあるのかと、思いがけないものを見つけることがあります。花の蜜を求めて集まる蝶や蜜蜂の動きもテレビや本などで良く知っている

と自分では思っていたくも、花から花へ風のように舞飛ぶ蝶、そして羽根を激しく動かしながら移動する蜜蜂を見てみると、新しい発見があり、新鮮な感動すら覚えます。花びらの上に浮かぶ露の玉やその水滴が太陽の光を反射してキラキラ光るさまは例えようもなく美しいものなのです。

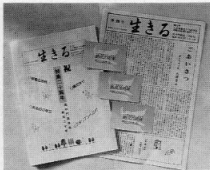
物の見方は小局的な見方と言えらるでしょう。私達が物事を見るときにはどちらか一方に片寄ることがないようにしたいものです。

皆さんも時には今までと違ういろいろな見方をしてみませんか、視点を変えたとこれまでとは変わった、新鮮な驚きと新たな発見と新しい世界が広がることでしょう。私は今年もカメラを肩に架けて歩き回ります。新たな発見と新しい世界を求めて。

新たな 旅立ち

患者会20周年

全腎協は今年の六月六日に結成二十周年を迎えます。その全腎協の第一回結成準備会が一九七一年（昭和四十六年）の三月十日に神保町の喫茶店で開かれています。その時の参加団体はニール友の会（現在嬉泉病院ニール友の会）、人工腎臓虎の門会、代々木病院腎友会、小豆沢病院そらまめ会、横須賀人工腎共助会の五団体です。



虎の門・高津会の記念誌とカード

第一回の結成準備会の議事内容は①健保本人以外の治療費の実態（更生医療適用前なので国保などがかかっている人の医療費は莫大だった）②人工腎の絶対数が不足③専門医の不足④名称の決定⑤財政問題などですが、まだ透析設備

人工腎臓虎の門・高津会が

結成20周年を迎えました

みんなの楽しげな顔がある。お世話になったドクターやナース、テクニシャンと昔話に花を咲かせる人。料理の箸をとる人。ウイスキーのコップを離さない人。透析二十年を生きぬいた重みを感じる黒い顔。

ここは中野サンプラザの宴会場。いま、人工腎臓虎の門・高津会の結成二十周年を記念したパーティーは、佳境に入ったところだ。私たちの会「人工腎臓虎の門・高津会」は、昭和四十五年十一月八日に発足した。

その頃、人工透析療法はまだ公費負担の対象になつてなく、当時の新聞は「人工腎臓も金次第」という見出しで、「毎月十万円以上の出費を強いてまで、生きる価値が私にあるだろうか。いつそ死ん

も整っていない時期でした。東腎協の加盟団体の中にも昨年から今年にかけて二十周年を迎える病院患者会が数多く誕生し、記念誌を主催したり、記念誌を発行したり活発な活動を展開しています。（草間）

虎の門会が発足してから七ヵ月

の後の昭和四十六年六月に全腎協が発足して、当会は、病院の患者会としてだけではなく、全腎協結成の準備段階から関わってきた。当会の初代会長である上田昭（昭和六十二年二月二十日没）は、昭和四十八年から十年間全腎協の会長を勤め、今日の全腎協の基礎を築いた。やはり全腎協、東腎協結成に参じた小川忠光（昭和六十二年一月四日没）始め、いまは亡き、石坂一男、阿部光美、池井弘、

また、いまも元気に活躍中の岡本暁らが会を代表して常に東腎協などの役員として活躍してきた。透析患者の二十年という時の流れは決して平坦なものではない。当会も昭和五十一年に高津中央病院がサテライトとして会に加わり、また、昭和六十一年から虎の門病院本院でも透析ができるようになり、会員数も一九二二人という大所帯となつていて、その運営はそれなりの苦労がある。苦労が多いが、役員の熱意でこの二十年を記念して何かを遺そうということになった。資金と時間という問題もあり、考えた末結局冒頭の二十周年記念パーティーの開催と、記念誌の発行、テレホンカードの作成を実施した。費用は四十万円程かかった。患者運動はスポーツでいえば長距離走。それもマラソンにたとえられる。決して短距離走のスピードでもなくパワーでもない。持続する持久力が最も大切だと考える。

これからも十年、二十年と続けられるよう会の中で話し合ってきた。（森）

上野公園・小金井公園に230人

腎臓、角膜の登録者拡大を

都などと共催で街頭キャンペーン

上野公園では五千枚配布

東腎協は、東京都、東京都医師会、ライオンクラブ、腎移植普及会と共催して十月十四日(日)腎臓及び角膜移植推進キャンペーンを上野公園、小金井公園で開催しました。

上野公園では、一時半から動物ぬいぐるみを着たバンド演奏、パトントワラーズの演技、主催者あいさつ、ミス下町によるアビールなどのオープンセレモニーがあり、街頭キャンペーンが盛大に行われました。

東腎協は、役員、会員などが午前中からチラシ、東京都が用意した卓上用鏡をビニール袋に詰め、準備作業をしました。そして、午後から会員、家族など百五十人余が参加して家族づれで行楽を楽しみ、人々に腎バンク、アイバンクの登録を訴えました。同時にテント内では虎の門病院の二人の先生による腎臓病無料医療相談会、上野病院の四人の看護婦さんの血圧測定が行なわれ、医療相談には二十二人、血圧測定に二百人以上が受診しました。

(加藤・記)

汗をふきふき がんばる

巣泉病院ニレ友の会

中田 青攻

十月十四日は腎キャンペーン。集合時間より三十分も早く前に出向くと、「この日は雨が降らない」と衛生局の人が自信ありげに言いながらも前夜の雨が気になってよく眠れなかったようです。すでに会場設営などほとんど出来上がっており、役員の来るのを待つのみでした。

そうこうしていると、役員、お手伝いの皆さんがチラホラ顔を見せ、この頃になると気温も上がり、暑さを感じるほどで、いよいよチラシと粗品の袋詰め作業の始まり。何しろ五千個、大変な数です。衛生局職員、東腎協の役員、お手伝いの皆さんの奮闘で流れる汗を拭き拭き頑張った結果、予定時間に終わってみんなほっとしました。袋詰めをしていたいたた皆さん、大変ご苦労さまでした。

正午から会員の受付をしましたが、私の知っている参加予定者(連絡有り)は百人前後でしたが、実際には予期しなかった多くの参加があり、驚きと同時に受付が大変混乱しました。お蔭様で百五十人を超える多くの会員の参加によって、今回の腎キャンペーンは、いい汗を流した思い出のキャンペーンになりました。

一人でも多くの人が 病気を知って欲しい

上野しのばず会 村田 茂
昨夜雨だったので今日も雨だったかどうかと思っていましたが、朝六時頃起きて空を見上げたら陽が出ていたので安心してました。私は、今年(九〇年度)から東腎協の幹事を任せられたので、つもなら午後一時に行けばよいのですが、常任幹事の人から午前十一時に来てくれなにかと言われて家を九時半に出ました。

今回は、チラシと鏡をビニール袋に入れなければなりません。五千個の鏡を袋に入れるのですから大変です。私が十一時少し前に着いたら十名の人が袋詰めをしてい



上野公園を訪れた家族づれに訴えるミス下町

たのであいさつもそこそこに手伝わうことにしました。一つのダンボール箱に百二十個の鏡が入っているのですから四十個のダンボール箱が所狭しと積み上げられていたのです。

私は物事をやり始めると全部終わるまでとは頑張ってしまう性格でキャンペーンのメインであるステージでの腎臓及び角膜移植の話が始まったのも忘れて袋詰めをしていたら堀常任幹事から写真を撮

小金井公園で初めて開催

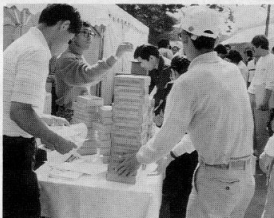
小金井公園で初めて開催された多摩地区の「腎臓及び角膜移植推進キャンペーン」は、今年度から上野公園と同じように東京地区の予算がつき、東京都、ライオンズクラブなどの共催で、広い会場では大きなステージがあり、華やかなパトントワラズや音楽演奏のセレモニーの中で盛大に行われました。ステージ横のテント内では杏林大学病院の先生による腎臓病無料医療相談会、吉祥寺クリニックの看護婦さん二人による血圧測定も行われました。

小金井公園では当日「小金井な

ってこれないかと言われ、あわててバックの中からカメラを取り出した次第です。休む間もなく上野のばす会の患者さんとその家族の参加者の人数を確認しなければなりません。私の会からは十四人参加してくれました。今回のチラシ配りは粗品が鏡とあってあつという間になくなってしまいました。一般の人が一人でも多くこの病氣のことを知ってくれればよいのだがと心の底から思いました。

かよし市民まつり」が開催され、公園は沢山の親子で混み合いました。市民まつりは毎年開催されているので、次回からは事前に連絡をとりあい共催出来ればキャンペーンを広報等でアピールして頂けてもっと大きな社会的関心が集まると思います。

小金井公園のキャンペーンの参加者は七十二人で、腎バンク登録者百一人、アイバンク登録者百五十人、血圧測定五十人、医療相談六人で、初めての試みでは大成功で、参加した会員の皆さんご苦労さまでした。
(東野・記)



右上・ピエロバンドの演奏 下・袋詰め作業（上野）
左上・ぬいぐるみで宣伝 下・パネル展示（小金井）

盛況であった 小金井公園

国分寺南口観光会

竹田 文夫

天気は前日からの雨が心配していましたが、当日になってウソのように晴れ、大変暑い一日でした。会場も広い野原にひととき目立ったステージであり、小金井市のお祭りらしい役お手伝いしたような催しでした。早朝から役員始め二十人程でチラシ等の袋詰めをし、十二時までに三千個を詰め終わりました。

セレモニーは、午後一時半から一通り終わり、チラシの配布になりますと会員参加者七十二人とライオンスクラブの方々も応援してくれました。思ったより早く配り終えまして、ステージではパトントワーズの演技や子供さん相手の歌などがありました。なかなか盛り上がった이었습니다。広い野原でしたが縫いぐるみや風船で会場は賑やかでした。腎バンク登録百一人申込みがあり、アイバンクや血圧測定も列が出来る程で関心があったようです。暑い中、疲れの様子も

なく、小金井市のお祭り広場まで行き、人込みの中に入って配布している人もいました。初めての試みとしては、大変盛況でありよかったと思います。

みんな生き生きして チラシの配布頑張る

三鷹北口病院腎友会

清水 忠次

絶好の秋日和となりまして、勇躍会場の小金井公園に向かいました。私たちは、作業の手伝いのため午前十一時に参集して作業に入りましたが、熱気をおびて汗だくになりながら十二時には終了になりました。

早速昼食を最寄りの方々とお話を楽しみながらいただきました。それぞれ生き生きとした表情で再会を楽しんで、嬉々として仕事を分担して右に左にと飛びが如く走り回っていました。これが難病に苦しむ人々かと驚きました。私どもの会場は北側の一角を占有して腎臓と角膜移植の受付のテントもあり、理解ある協力者の登録も多かったです。

一ノ清副会長の「苦勞さま」

のあいさつでキャンペーンは終わりましたが、受付の方々は四時半までやっていた由、本当にご苦労さまでした。キャンペーンを通じて得たことは、みんな目的があつて仕事をする時は目が輝いて一杯の力をこめて献身的であるということ。こうして元気を毎日の闘病に役立てて欲しいと思いま

血圧測定



好評だった小金井公園での血圧測定

役員の苦労も大変

お蔭で楽しく配布

調布病院腎友会 佐伯 武夫

キャンペーンに調布病院腎友会から村上常任幹事の他七人が参加しました。今回のキャンペーンは、配布する品物(卓上用鏡)がよい物でしたので、喜んで受け取ってくれました。配布する人も受け取ってくれるのとくれないのでは気が

分的に違い、気持ちよく配布することが出来ました。

沢山の品物を準備して下さいました役員の方々の苦労も大変だったと思いました。また、配布する会員の方も日差しが強い秋の一日を楽しく配布することが出来ました。次のキャンペーンにも少し中身のよい品物を配布出来るように願います。

晴天にも恵まれて

盛大なキャンペーン

むさしの会 牧山 幸子

晴天に恵まれ、大変楽しくすばらしいキャンペーンでした。むさしの会の皆様にも聞いたところ、ゴミもそんなに散らかさず、チラシもずつと取ってくれたと好評でした。今年度は都と一緒にしたのでとても盛大にも感じまし

小金井公園の

広さにびっくり

吉祥寺クリニック腎友会

井上 寧枝

都より三百五十万円の予算です

るのだということを常任幹事会で伺っていたのですが、初めての参加だったのでどんなこととするのかなあーと迷っていました。本当にはなやかなキャンペーンでした。小金井公園があんなに広いとはびっくりしました。私は、医療相談の受付をやらせていただいたのですが、相談に来られた方の声が何となく聞こえてきたのですが、病氣そのものより神経的なことを訴えている方がおられました。さすが先生、つぶねるようなことをせずやさしくさとしておられました。血圧測定は、皆様大変気軽に腕を差し出していました。チラシ配り組の感想を聞きましたところ、個々にバラバラに配るよりチームを組んで、例えばハンドスピーカーの回りに五十七人位のチームを一回として場所も正面入口の方まで分かれて配った方が効率が高かったのではないかと意見がありました。

当腎友会の二、三の方からお子様をつれたり、家族で来たが場所がわからず帰っちゃったと言われました。公園内の宣伝に一考ありと思います。三人の動物(謎いぐるみ)大変よかったです。

潮流

明るい話題でなくて恐縮ですが、がんについてのトピックスをひとつ。がんによる死者は一九八八年に二十万人を突破、高齢化社会を迎えて今後も増え続ける勢いです。最近、腎臓の実質にできる腎細胞がんが急増しており、専門家の間で注目されています。

糸球体、尿管などの腎臓実質にできるがんは、子供にできるものをウィルムス腫瘍、大人にでき

急増する腎細胞がん

早期発見へ毎年検査を

よりも増え、世界的に増加の傾向が目立っています。東大病院と関連施設の統計でも、一九七五年の八年間の患者は十人だったのに、八年は五十五人と激増しています。同教授は原因として①超音波

術で大部分が治療します。治療の目安である五年生存率は九〇%以上といえます。しかし血尿、腹痛などの症状が出てからでは必ずしも早期とは言えず、治療成績は落ちます。がん

るものを腎細胞がん(グラビッツ腫瘍とも言う)と言います。後者は腎臓にできるがんの約八〇%を占める頻度の高いがんで、血尿、発熱、腹痛などの症状を伴います。東大泌尿器科の阿曾佳郎教授に

やX線CTなど画像診断の進歩②大気汚染などの環境要因③人口の高齢化④などをあげています。幸いなことに健康診断の際の超音波検査などで早期発見されるケースが増えており、この場合は手

そのものが大きく、悪性度が高いと、五年生存率は三、四〇%にまで下がります。最近では、転移に対して有効なインターフェロンが出てきています。抗がん剤は依然いいものがないとのこと。

透析患者の方で注意しなければならぬのは、長年透析を続けていると囊胞(袋状の腫瘍)があることです。阿曾教授は「毎年、必ずX線CT検査を受ける必要があります」とアドバースしています。(木村 治之)

医学

ニューススポット

臓器移植推進
へ徹底論議を

脳死臨調へ期待

脳死と臓器移植についての国民的合意を探る脳死臨調(首相の諮問機関)の第一回地方公聴会が十一月二十一日、名古屋で開かれました。今回は中部地区の九県を対象で、公募した二十五歳の大学生から六十三歳の医師まで八人が

意見を発表。永井道雄会長ら六委員と質疑を行いました。

この中で、福井県腎友会会長で全腎協幹事の太田保彦さん(四十四歳)も意見発表者として登壇。人工透析を十五年間受けている自らの体験や、患者に共通した苦しみや願いを訴えました。

「私の隣のベッドで、透析を受けていた女子中学生が死体腎移植を受けました。すると、どうでしょう。それまでは見るからに暗く、

話しかけても満足な返事もなかった子が、なんと自分の方から言葉をかけてくるようになりました。移植のお陰で顔色はかりでなく、性格まで明るく変わったのです。ドナー(臓器提供者)の死を前提にすることに矛盾は感じながらも、もし善意の臓器提供をいただければ、その人の分まで精一杯生き、恩返ししたいと思います」と移植、とりわけ脳死者からの移植を切望する気持ちを訴えました。

臨時脳死及び臓器移植調査会 中部地区公聴会



大田保彦さん

「死の定義」はだれもが関係するテーマです。臓器移植を希望する患者の思いや、移植のメリットをもっとアピールするとともに、国民が身近な問題として広く議論していく機会をつくる必要があると、前野一雄（前野一雄）

しかし、その一方で医療過誤事件に携わっている弁護士は「仲間をかばい、相互批判のへたな現在の医師の世界では、脳死の判定や移植が適正になされるか、大いに疑問」と主張しました。

また、脳死になった夫の腎臓提供も申し出たところ、それまで病状など何の説明もしてくれなかった医師の態度が一変。途端に親切になったという女性の体験談も聞かれ、脳死判定と移植を担うべき医療側の課題も少なくないようです。

治療法の問題 点浮きばりに 生体部分肝移植

生体部分肝移植

重症の肝臓病患者に対する治療法として、着実に裾（すそ）野を広げていた生体部分肝移植は、十一月、十二月にかけて、患者の死亡が相次いだ。この結果、十二月二十日現在、患者十一人のうち死亡は四人にのぼっている。

欧米諸国では、すでに一般的な治療法となった脳死の臓器提供者（ドナー）からの肝臓移植は、移植後一年生存率が約八〇%、五年生存率が約七〇%といわれる。

それに対し、我が国の生体部分肝移植は十一例中七例が生存。今の段階で統計を言うのは早計かもしれないが、脳死肝移植と比べてそれほど悪い成績ではない。

さらに、死亡した四例中、八月死亡した島根医大の男児（二歳九か月）と、十一月死亡した信州大の男児（二つ）、十二月十五日死亡した京都大の男児（九つ）の三例は、いずれの例も、容態がかなり

り悪化した段階で緊急措置として手術を受けている。

これを踏まえたうえで、生体部分肝移植を積極的に推し進めている医師たちは「死亡例を今後の移植に結びつけていくことが大切」と強調する。生体部分肝移植への意欲は衰えていない。

しかし、これまでの死亡例から①緊急手術での高死亡率（全例）②強烈な拒絶反応にどう対処するのか（信州大の例）③移植した部分肝がうまく動かない場合、脳死問題が未解決では脳死ドナーからの再移植ができない（同）④拒絶反応以外の、術後合併症に対するキメ細かいケア（島根医大、京都大、信州大）⑤巨額の治療費を誰が負担するのか（全例）といった問題も浮き彫りになってきた。新しい治療法は必然的にある程度、犠牲を伴うのかもしれない。しかし、生体部分肝移植を真に定着させ、実験的治療の域を脱するためには、こちらで、この治療法が抱える問題をじっくり検討し直すことも必要だろう。（井川陽次郎）

調の中部地区公聴会

本欄は読売新聞社の協力で編集作成しました。

都民の健康を願って

腎臓病を考える都民の集い開催

昨年（H二）十一月二五日（日）に「腎臓病を考える都民の集い」が開かれました。場所は本年四月からは都庁も移転する新宿でした。その新宿でも有名な住友三井ビル内の住友ホールに二五〇人ももの聴衆を集め盛大に開催されました。今回はこの集いの目的の一つである一般都民の参加も大巾に増えました。

私たちの運動に以前からご理解の深い松村満美子さんの司会により最初に東京都衛生局長大坪哲夫

氏のご挨拶があり、都民に広く腎

臓病への認識を深めてほしいとの訴えをされました。東京都医師会理事柳内嘉氏は腎

登録の大切なことにご理解をいた

だきたいと説得されました。次に東腎協会会長泉山知威氏はご自身の体験に根ざして、これ以上健康人に腎臓病の悲しさを味わせたくない観点から早期発見や腎臓病の治療を含め心動かされるお話をされました。ライオンズクラブの河崎明彦氏は八六〇〇人会員全体が明日は我が身という気持ちで献腎、献眼、献血の三つを推し進めていくと支援の姿勢を強調されました。

そのあとお三人による講演（詳細は次頁）が行われ、深い感銘を与えられました。またアトラクションとして、素晴らしいアンサンブルによる室内楽、弦楽四重奏の演奏があり、心を和ませられました。最後に吉川泉・都・特殊疾病対策課長による来年も実施することのご挨拶をいただきました。

プログラム

一、開会

総合同会 松村満美子
あいさつ

大坪哲夫（東京都衛生局長）
柳内 嘉（東京都医師会理事）

二、講演

泉山知威（東腎協会会長）
河崎明彦（ライオンズクラブ
国際協会三三

〇一A地区・献
眼、献腎委員会
委員長）

三、講演 三題
「腎臓病のはなし」
長沢俊彦（杏林大学医学部
教授）

「健康と食生活」
佐藤妙子（国立病院医療セ
ンター医療管理室長）

「私の健康法」
後藤美代子（大正大学講師）

三、アトラクション
弦楽四重奏コンサート

四 閉会の挨拶
吉川 泉（東京都衛生局医
療福祉部特殊疾
病対策課長）

腎臓病を考える都民の集い



多くの都民参加で盛り上った会場

大きな感銘

講演三題

〔腎臓病のはなし〕

杏林大学教授長沢俊彦先生は我が国でも屈指の腎臓病ご専門の大家であります。ご講演の時間も限られた中で焦点をしぼるのは難しいが全般的に漠然とでも腎臓病がどういうものかわかっていただければいいとおっしゃって、一般都民向けにわかりやすい口調で話されました。

最初に受け持たれた患者が腎不全の患者で工学部の学生であった方が、当時は尿毒症は手の施しようがなく亡くなられたそうです。現在は国際的にも羨ましがられるほどの集団検診システムがあり、若年の導入患者は減少してきてい

る点など明らかな点も指摘されました。

しかし、なお、糖尿病性の腎不全患者はグラフ的に登り線にはなっているが、これは腎臓が悪くなっているから専門医が診るからで、この五、六年のうちに糖尿病のコントロールが徹底してくればまた下降線になるとのご教示もありました。

〔健康と食生活〕

国立医療センター栄養管理室長佐藤妙子氏は長年のご経験から食



松村満美子さん



佐藤妙子先生

物によって人間がいかにか大きい影響を受けているかを説かれました。少しの注意によって病気を防ぐことを聴衆にわかりやすい具体的な例を挙げて説明され、食生活の大切さを訴えられました。

○病院の現状でも一〇〇二床、七〇〇一七五〇名の患者のうち、年齢的には五〇歳以上の患者が五〇%以上を占めているが、その殆どが慢性疾患かがんであることと、四三%が食事療法を必要とする患者であることと、国全体の高齢化現象と食生活から来る発病の状態を表わしていることと説明され、スナック食品などの食べすぎにも警鐘を鳴らされました。髪の毛から爪の先まで食物でできているというお話しは特に印象的でした。

〔私の健康法〕

元NHKアナウンサー後藤美代



後藤美代子先生

子氏は個人的なことですがと抑えた口調の中に三五年間、当日になって勤務体制を崩すような急病になったことはないという実績のもとに一般人が心身をどのように健康に保つたらよいかユーモアをまじえてお話し下さいました。

幼い頃は昔の虚弱児というレッテルを貼られていたが、高校に入ってからバレーボールを始められてから、病気が知らずになられたことなど、実人生に即したエピソードから、実は停年後二年半経過してきて、この三年間、健康診断を受けていないので内心は心配していることを吐露され、受診の大切さに触られました。

また、老年という言葉でなく爽りの時を迎えご夫婦のあり方をも考え精神の充実としての会話の重要なことを説かれご講演を終りま

(木村・記)



長沢俊彦先生

「集い」を支えた人々

立ちっぱなしの道案内

会場までの道案内は常任幹事ではないが、いつも東腎協の行事では積極的に協力してもらっている工藤さん（月島サマリヤ病院）、竹川さん（西新井病院）、村田さん（しのばず会）と山田常幹が受け持ち、早めの昼食をとり新宿駅地下構内、住友ビル入口付近に東腎協の旗を持ち十一時から午後一



会員受付も大忙し

時まで立ちました。

一方住友ビル内では高橋政時、東野、堀の三人の常任幹事、住友ホールに入ってから小泉、川島両常幹が席まで案内しました。このように道案内は充分に行なったつもりでしたが、近代的なビルの建ち並ぶ副都心は道に迷う人が多く、会員さん、一般都民の方は大変だったようです。

駅頭でチラシ配付

新宿駅頭と会場周辺で「集い」への参加を呼び掛けるチラシの配付を行いました。ビデオ撮影をかねた高橋副会長と都の職員が中心（責任者の竹田常幹、体調が悪く欠席）となり、岸さん母娘、田村さん（嬉泉病院）、岩本さん（あけぼのの友の会）、牧山さん（武蔵野会）と道案内の山田常幹、竹川さん、村田さんが道行く人にチラシを配り、ハンドマイクで参加を呼び掛けました。しかし、都民へ

考える都民の集い



講演終了後、アトラクションとして弦楽四重奏コンサートが開かれました。バイオリン、川瀬麻由美さん、桐山なぎささん、ピオラ、武田信夫さん、チェロ、松岡陽平さんの四人の奏者によるドボルザーク弦楽四重奏曲「アメリカ」ほか素晴らしい演奏で、「ゆとりの大切さ」を感じた一日でした。

の啓蒙活動としては効果があったようだが、苦勞の割にはチラシをもらって参加しようという人は少なく、今後の検討課題として残りました。

受付も奮闘

受付は都の職員と東腎協常任幹事（柳責任者、中田、石川、笹川）と広瀬さん（くにたちさくら会）が行い、詰めかける会員、一般都民の方々に対応しました。

好評の医療相談

医療相談受付は昨年同様、糸賀副会長、林田常幹が受け持ち、てぎわ良く行いました。今年は十七人が相談を受け、好評でした。

多くの人の協力で

会場への資料運搬、役員の食事の準備は草間次長、東京都との連絡に泉山会長、森事務局長があたりました。このように「集い」は準備、実施のために役員に限らず、数多くの方々の協力によって支えられています。

ほかの行事においても、今回は全腎協のしごとで参加出来なかった一ノ清副会長、そのほかの常任幹事全員が丸となって活動を進めています。（この頁担当草間）

年頭の挨拶

厳しい状況のなか

全・東腎協は多くの実績を残す

東腎協会長 泉山 知威

療友及びご家族の皆様、また私たち東腎協をご支援・ご指導いただいております。医療関係者や東京都など行政や都議会関係など多くの皆様、明けましておめでとうございます。今年も一年間また一緒に頑張ってくださいませ。また、これからの一年間宜しくお願いを申し上げます。

年頭の挨拶を書こうと思いきや、どうしても過去のことを振り返ってしまいます。過去一年間に



腎臓及び角設村

とどまらず、私の場合はどうしても十八年間を振り返り、これで良かったのかこれからの一年間はどうかすべきかを考えることになりました。

それといえますのも、私は昭和四十七年十月の透析導入でして、東腎協の結成はこの年の十一月でしたので、私の透析歴と東腎協の歴史はほぼ同じと言えるからなのです。

昭和五十年前後は東腎協役員の本體も現在のように元氣とはいえず、時には横に寝そべりながら役員会を開いたこともありましたが、財政も充分ではなくご寄付をいただくためにメーカーまわりをしたこともありました。そして活動家も不足してしまいました。

このような苦難にもかかわらず、この当時は頑張って運動する

ことにより、透析医療費の助成や心身障害者の医療費助成と福祉手当の支給など、ここに紹介するには書ききれないくらい多くの福祉施策を勝取ることができました。

しかし、石油危機をきっかけとして国の政策も財政が国債に頼る赤字体質となったため、第二臨調の答申を始めとして個人の自助努力、家庭や近隣、職場等における連帯と相互扶助、行政の役割の見直し、国の一般会計歳出の伸びの抑制などの方向に転換をしました。そして健康保険法、医療法、最近では福祉八法等も改正され、財政負担のかかる福祉行政の地方公共団体への委譲や透析医療費の引下げなどが実施されました。

このような厳しい現在の状況のなかでも、東腎協や全腎協は近年にも多くの実績を積み上げております。昨年二月からはJR運賃や航空機の料金に外部障害者同様の割引が適用になりました。

東腎協についていますと、昭和六十二年の東腎協結成十五周年を境に、大きく成長をいたしました。単に目先の透析医療や腎臓移植の問題だけではなく、都民や国

民の健康のため予防や早期発見・早期治療体制のためにどうすべきかなども運動の視野に入れております。

お陰様で私たちの気持ちをご理解いただきました。東京都においても「腎・アイバンク登録推進キャンペーン」や「腎臓病を考える都民の集い」を都医師会、ライオンズクラブや腎臓移植普及会の皆様と共催で開いていただき、この数年をみましても東京都の新規事業として、「腎臓移植の組織適合検査費用の一部助成」や昨年秋の「腎・アイバンク登録推進のJRを始めとする私鉄各社でのポスターの車内吊広告の実施」などが実現しております。

これも現在の東腎協各役員を始め会員の皆様の運動の成果だと自信を深めております。

今年も私としましては、都立病院での成人の腎臓移植の実施や透析患者に対する災害対策の確立などを中心に、役員を始めとして多くの皆様と協力して運動を進めてゆく所存です。これからも大きなご支援ご協力をお願い申し上げます。そして新年の挨拶とさせていただきます。

会員さん訪問(40)

一人歩きで体力づくり 教育実践へ自信を回復

中島 和利さん

透析人生をどう生きるか、人それぞれの歩み方があるとはいえ、体のハンディを乗り越えて、力の限り生き抜く姿は、人々の感動を呼ぶに違いありません。人工腎臓虎の門・高津会(虎の門病院)の中島和利さん(四十一歳)は小学校の先生という職務を、力の限界のギリギリのところまで自分を試しながら、子供たちの教育に打ち込んでおられます。「私はただ働きたいだけなのです」と謙遜に話される中島先生の中に透析人生だけでなく、教育の原点を見た思いでした。

一時は医師不信に

透析までの経過をお聞かせ下さい。

中島 昭和五十六年五月のことでした。当時、松戸から二時間かけて品川区立城南二小に通っていたのです。体がひどくだるく、尿の色が変化したので、近くの医師の診断を受けたところ、「まあいいでしょう」程度の見立てでした。その後たるさも取れず、顔にもむくみが出てきたので、翌年の五月、同僚の紹介で都内の某大病院の診察を受けました。腎生検の結果「慢性糸球体腎炎だが、進行性ではない」との診断で「食事制限は必要だが、運動制限は必要ない。用心すれば大丈夫」ということでした。

昭和五十八年四月には現在の港区立赤坂小に移り、通勤時間は七

十分に短縮され、体は随分楽になりました。ここで五年生、六年生を二回連続して担任し、その間、同校が歯の健康指定校になったり、特別活動の研究をおこなったりで、病状は続いていたものの、多忙な日々を送っていました。昭和六十年ころから妻(登志子さん)の勧めでハリ治療、ツボ治療を続けていました。

昭和六十二年夏、吐き気、ふらつきなどの貧血症状が進んできて、五年前腎生検をうけた病院で再度腎生検を行うことになりましたが、いざ実施する段になって「腎硬化症」の診断が出て、腎生検を取り止めになりました。進行性でないといった腎炎が悪化していたのです。私はすっきり「医師不信」に取り付かれてしまいました。以前の診断は何であったのかと。私は思い余って父兄の歯科医に相

談してみました。その人と東京医科歯科大の同窓の虎の門病院内科の鈴木好夫医師を紹介してくれました。

鈴木医師の手厚い診療で、私の「医師不信」は次第に解消してきましたが、病状は残念ながら悪化する一方でした。血圧降下剤を服用しても、血圧は常時一七〇を下らず、学校までの坂道、学校内の階段の上がり降りも容易ではなくなりました。

昭和六十三年五月ころから病状は急激に悪化して、同年九月一日虎の門病院に入院し、六日シャント手術、十二日から透析を始めました。

エリスロポエチンの効果

相当ご無理されているようですが。

中島 昭和六十三年からは算数の研究の中心になって活動していましたが。昭和六十二年からは、少しでも私の負担を軽くしようという学校の配慮で、四年生の担任に、翌年から現在までの三年間は一年生の担任を勤めています。透析に入るまでの苦しい間も、子供達ととんだりはねたり、夏はプ

ールにも入っていました。
透析に入ってからはいかががで
すか。

中島 だんだん良くなってきま
した。とくに今年(平成二年)の
夏、エリスロポエチンを使い始め
てから、ヘマトクリットが二一
二%から三二・三%まで上がり、
体調は驚く程よくなりました。

住居も学校側の尽力で去年(平
成元年)の四月、高輪の港区の施
設に移転でき、通勤時間は僅か三
十分に短縮されました。

先生は体力が一番必要といわ
れますね。

中島 昭和六十三年九月に約一
か月入院、その年いっぱい自宅療
養して職場に復帰しましたが、体
力が一番不安でした。趣味のフル
ート演奏も止め、ともかく体力を
つけることに専念するため、歩け
るだけ歩きました。エスカレータ
ーやエレベーターは使わず、土曜
日には都内をよく歩き回りました。
例えば新宿から赤坂までとか、
銀座から高輪までというように。

自分へのチャレンジ

この十月には尾瀬まで、一泊二
日のひとり旅をしてきました。槍

杖から沼山峠を越えて長蔵小屋
までいって一泊、翌日長蔵小屋を
出て尾瀬沼へ尾瀬ヶ原へ温泉小屋
へ三条の滝へ御池という標準六時
間コースを五時間半で歩き通し、
これですっかり自信をつけまし
た。行き交う人もなく、本当に自
分へのチャレンジという感じがし
ました。十一月末には中央アルプ

スの木曾駒ヶ岳へ行きましたが、
不意の積雪のため準備がなかった
ので、登頂を断念しました。来年
は必ず登ってまいります。
今は登山の机上プランづくりが
すっかり楽しみになりました。

病気のことは子供達にも話し
てありますか。

中島 教える子にも父兄にも全て



赤坂小学校校門前で教える子と並ぶ中島先生

中島先生の透析歴は
まだ二年を越えたばかり
です。これからまだ
まだ山あり、谷ありの
人生が続きます。しか
し、周囲の理解と支援、
ご本人の努力など、ど
こから見ても、透析人
生のあるべき姿を見せ
てくれています。移植
を希望されている中島
先生に、その夢が実現
し、さらに力いっぱい
働く先生の姿を是非見
たいものです。ともか
く、頑張れ、中島先生。
(文と写真・小脳)

〈連載 その2〉

加藤 茂

私の雑記帳

機関誌「東腎協」の編集方針をめぐって大論議したと前回の雑記帳で書いたが、どんな機関誌が一番書まれるのかを考えていたところ、昨年の秋、機関紙学校というのがあるというのを知って参加してみたのだった。

機関紙学校で学ぶ

機関紙編集のための講座「東京機関紙学校」(日本機関紙協会都本部主催)の内容は、①取材の仕方・記事の書き方②見出しの付け方③編集・レイアウトの方法を実技を含めて一日で学ぶというものの。

読まれる機関紙を作るためには、①定期的に発行をする(定期的に読者に届ける)②読者が主

人公(読者の顔が沢山載る方がよく読まれる、読者の名前が出るような記事)③事実を多く、意見は少なめ④指導性だけでなく大衆性のある企画も⑤要求を取り上げる⑥役立つ、知識が身につく企画も必要⑦「みんなで作る、みんなの機関紙」をめざす、などが必要という。読まれるということで調査してみたところ、情報誌や交流のための雑誌などがよく売れていると言われた。自分の利益になる、知らない人と友だちになりたい、自分もその紙面に登場してみたいなどの欲求が若者たちの中で強くあるという。ちなみに好きな言葉の第一位は「出会い」という調査もあったとか。

こんな講師の話聞きながらそ

れでは「東腎協」の誌面は一体どうなっているのだろうか、と考えてみるのである。「配つても読まないで捨てられてしまうなあ」という話も耳にするので、ここで聞いた機関紙づくりの条件を参考に、して内容を充実させてよく読まれるものにしていかねば……。そのためにも編集委員としてさらに頑張らねばと思うのだった。

記事の書き方の講義と実技もあった。まず、すくすく書ける人はいないのでどうすればいいかというところ、①材料を豊富に揃える(ネタをどれだけ揃えられるか)②主題をハッキリと③組み立て方を覚える(起承転結、結論を先に書く)と三つのポイントが示された。

次にインタビュ記事のまとも

方の要領を聞いた直後、講師から「参加された皆さん同士で二人一組でそれぞれがインタビュアーになり、お互いの人を紹介する文章をこれから昼食をはさんで二時間位、六百字で書いて下さい」と言われた。それを聞いた受講生からは思わず「あっ」と驚きの声が上がったが講座に参加したので仕方がない。四十人余の参加者は、それぞれ相手を見つけてペアとなっていた。

インタビュ記事を書く

私は、隣に座っていた女子学生に話しかけ、ペアになってくれるよう頼んだ。なにしろ、相手のことはまったく何も知らないのだから最初の名前を聞き、どんな理由でこの機関紙学校に来たのかを聞いていつ、次の文章に提出した。

「手書きの新聞の方があったかみがあるでしょ。女子ばかりだから活字やワープロを使ったらじや冷たいので楽しい紙面づくりをしています」とN女子大学で生協ニュースの編集長としてはりきっているM本佳世子さん。

B五サイズで八百建て、毎月発行しています。機関紙担当者は五

●文章を書く難しさと苦しさを味わうⅡ機関紙講座も楽じゃない



福寿草 (板橋区立植物園で)

人。一年生三人、二年生二人でM
本さんはまだ一年生なのですが、
この大役を引き受けました。生協
委員の任務分担を決める時に最初
は他の係をやりたかったそうです

が、機関紙担当になってすんなり
と責任者に。とにかく文章を書く
のが好きです。
「料理の作り方は人気あります。
生協の食堂での席とり問題や、西

生田に新校舎が出来たのでレポー
トしてみました。このイラストも
私が書いたんですよ。ここ数カ
月間に発行されたニュースを手
語ります。

「編集会議を開きたいが、みん
なサークル活動とかけもちなので
会う機会もないから昼休みにばっ
ぱっと集まって各自の担当を決め
て作っちゃうんです」というので
すが、内容は豊富でユニークな紙
面です。機関紙編集の他に、生協

の店舗にこういう品物を置いて欲
しい、生協食堂のこのメニューは
うまくないといった苦情を改善し
ていく活動もあるんですよと親切
に教えてくれました。

M本佳世子さん 昭和45年8月
4日生まれ、東京新宿区神楽坂の
自宅から目白にある大学に通学。
趣味は絵画鑑賞、読書。

文章を書くシンドキ

この文章に対して後日添削され
て送られた講評は「全体にしま
りしたまとめ方です。このままで
すぐ使えます。紙数の関係だった
と思いますが、結論がやや弱かつ
たようです。余暇とか、モットー
とか、生協での生きがいとかで

すっかりしめたかったと思いま
す」と丁寧にかかれてあった。
私ももつといっぱいあれもこれ
も書きたかったが、六百字、二時
間という制限がありなかなかうま
くまとめることができなかった
(これが実力なのかも)。

これまで「東腎協」の「会員さ
ん訪問」で何回もインタビュー記
事を書てきたが、この時は改め
て文章を書く難しさと苦しさを味
わったのだった。

この日、初めて会ったM本さん
とは、記事を書くのでいろいろな
ことを話したが、カパンの中
に十月に上野公園で配布した腎キ
ャンペーンのチラシがあったので
渡して、東腎協で腎バンク拡大の
運動をしていることを喋った。数
日後、「腎臓病を考える都民のつ
どい」のチラシと機関誌を郵送し
て、さらに腎バンクの運動を理解
してもらえよう願った。

この機関紙学校は、私にとつて
よい勉強の機会と出会いになっ
た。それにしても文章を書く作業
というのはシンドイ。

一九九一年 冬

〔「東腎協」編集委員〕

東腎協学習交流会

患者会活動を活発にするために(Ⅱ)

活発な会活動

あけぼの友の会

岩本美津枝

今日は友の会の活動報告と言われたのですが、皆さんの会と同じようなことをしております。特別うちの会が活発に活動しているとは思えないのです。大変恐れ多く思うのですが、披露させていただきます。

新患者に呼び掛け

新しい患者さんが入りましたら、その方が通院できるような状態をみはからって資料などを添えて各曜日担当の役員が入会をお願いしております。

顕彰式の実施

四月には総会及び顕彰式と講演を兼ねてやっております。総会だけでは出席者が少なくなりつつあ



岩本さん

りまして、四年前ごろ友の会の十年目を記念して透折十年の方の顕彰を行うという事に決まりました。総会と一緒にやっております。この顕彰の費用につきましては、賞状と記念品を渡すことにしておりますけれど、いままではほとんど病院が負担してくださっております。

年六回会報発行

次にあけぼの会報発行ですが、年六回くらい出しております。内容につきましては、各行事の報告とか、行事の感想、講演会等の内容を記事にしています。講演会等

につきましてはテーブルとり、それを何人かの役員で記事におこし、出席できなかった会員の方にも内容を詳しく知らせようになっています。

役員会の充実

役員会は年、六回程度行います。毎回、病院の職員食堂を借りて行っています。行事の打合せ、先に行った行事の反省、また東腎協の行事の報告等を行います。会員の病院に対する要望なども常時耳にされるようにしまして、その場で話し合いが必要に応じて病院側に申し入れるようにいたしております。

マンネリ傾向の打破

何年かこういようなかたちで進めてきたのですが、ちよつとここでマンネリ傾向もでてきましたので、今年は少し内容を変えてみようかということで、総会のような講演につきましては、講演ではなく透折全般にわたっての質疑応答と全面的に質問の形をとりました。そして医療スタッフに答えていただくというような方法をとってみました。

まとめとしましてあけぼの友の

会が今、このような活動ができるのは院長先生はじめ本部の常務さんとかテクニシャン、看護婦さんが各行事に参加下さり、また会員の方々のご協力とともに役員が互いに力を合わせてやることによって会の運営がスムーズに行っているのではないかなと思っております。

あけぼの友の会

元年度おもな活動

4月 総会及び顕彰式・講演(町田市民ホール出席者98名)

5月 パーベキュー会(上大島キヤンプ場・参加者21名)

10月 学習会(第一生命ホール・出席者69名)

「腎移植について・骨痛の問題・エリスロポエチンによる造血効果について」

10月 腎パング拡大街頭キャンペーン(町田東急広場・参加者49名、あけぼの病院看護婦さん2名血圧測定に協力)

11月 バス旅行(埼玉県長寿・参加者42名)

1月 新年会(参加者36名)

新しく会を結成

東海病院ひまわり会
渡辺 精二

淋しい思いで透折

苦勞して結成した会の発表のテーマなのにすけれども、実際、私自身はまだ苦勞はしていません。よそで透折して、転院して周りに知人も誰もいないところへいきなりばんと移ってきました。透折をやっていたのですけれども、知人もおらずさびしいものですから、何か会があれば入りたいということで、看護婦さんに聞いたのですが、そうだったものは何もないということでさびしい思いをしながら透折をやっています。

東腎協の説明を聞く

そのうちしばらくして、いわゆ



渡辺さん

る旅行とか好きな方がおりまして、十人ぐらいでグループ旅行の機会が病院内にありました。それで同好的な行事を行っていたのですが、究極的には私たちがすべて東腎協に入るという一つの目的がありましたので、東腎協の話しをしまして、東腎協そのものの存在すら知らない人もいました。これは非常にさびしいことでした。

当時七、八人の方は個人会員として東腎協に入っておられました。全体としては存在すら知らない人が多かったものですから、それではひとつ何かの機会に発表しようということ、私自身東腎協のことを詳しく知らないもので、暮れの忘年会のときに思い切って東腎協の役員の方でなか一人呼んで、その方にいろいろお話でもいただけたらということで、東腎協さんに話したら快く参加していただきました。その時、泉山会長さんにおいで願ったのですけれども、ひまわり会会員の皆さんが、こういいたいものがあるからせむというので、昨年三月に正式に東腎協に入会させていただきました。

患者運動の理解と

組織率の向上

透折医療の保障や福祉の保障はなかったと思います。現在の医療・福祉保障を当然の様に思っている方もあると思いますが、これは大変な誤解だと思います。

私たちの先輩が命と引替に叫んだ運動が現在につながっていると思います。その意味でも全腎協以下各患者会はその魂を引き継いでいると思います。会の活動に無関心だったり、「何とかなる」、「他人任せ」にしないで少しでも患者運動に参加し、医療の発展と福祉の向上を願うものであります。

現在、東海病院の患者総数は一



ゲーム紹介の冊子

二〇名です。その内「ひまわり会」会員は約四十名で、組織率としては三〇%です。あけぼのさんは八〇%との事です。もつともつとパーセンテージ向上をめざし組織率を高めていこうと考えています。よろしくお願いいたします。

勉強になった交流会

森山病院友の会
石川 通寛

初めて出席させて頂き、大変参考になりました。特に活発な患者会の活動報告は非常に勉強になりました。各患者会とその病院との関係が様々であり、特有な苦勞がある事がわかりました。もつといろいろな患者会の活動状況を今後共、このような形で拝聴できたらと思います。最後のゲーム紹介はわが患者会の今後の親睦活動大いに生かしたいと思えます。

みんなのために

腎研友の会
早坂千代子

私は腎研クリニックでお世話になって三年半になります。はじめは友の会の事も知りませんでした。透折もなれた一年目頃から

先輩と一緒に東腎協の会に出席したりした時から私だけじゃなく全国にこんなにも多くの方々が病氣と闘っているのだと知りました。

そして二年からは身体のあいた時には、なるだけ会に出席して会の一年間の動向をスライド等で知り、役員さんからの情報など聞いて、いろいろ細かい問題があるのだなー、大変だなあーと思いました。

今年になって私も友の会会計をやらせていただいたり、まだ東腎協等の会に入会しない方々がいるのを知りました。九月十六日の学習交流会で会長さんが述べていた人間関係がスムーズに行くかが大切な要因で、そのような方は人間関係を拒否している方が多いのではないのでしょうか。その様な方々こそ東腎協の交流会等に出席して、会長さんの熱意ある言葉、諸問題の表情を知ればと思います。誰の為でもない、私達皆んなの為なのです。

こんなに一生懸命して下さっているのを見ると協力しないではいられません。私もこれから友の会、東腎協の良き協力者になりたいと思っています。

やさしい障害年金コーナー

二〇歳前障害基礎年金等の所得制限について

Mさん 私は、現在障害基礎年金を受給中です。収入が増えると、年金がとまってしまおうと言う話しを聞きましたが、本当ですか。

事務局 あなたの障害基礎年金は、二〇歳前の初診による障害基礎年金(旧障害福祉年金を含む)ですか。

Mさん はい、そうです。

事務局 二〇歳前の初診による障害基礎年金は、保険料を納付することなく受給する年金でありますので、その給付財源は、全額国庫負担により支払われています。そのため、ある程度の所得がある場合、その支給が停止されることとなります。

Mさん 所得がどのくらいになると支給が停止されるのですか。

シリーズ ③

事務局 受給権者の前年の所得が、国民年金法施行令に定める額を超えると、当該年の八月から翌年の七月まで停止されることとされています。

昨日は、受給者本人の所得が二四六万八千円(扶養親族等の数がゼロの場合)まで引き上げられました。年取でみると、三七〇万四千円になります。

※二〇歳前障害基礎年金等の受給権者本人の所得による支給制限限度額(平成二年五月三十日、国民年金法施行令等の一部を改正する政令)

ご自分の所得を源泉徴収票等で確認してみ下さい。
具体的な年金相談は、事務局又は、社会保険事務所へ。

(赤賀)

扶養親族等の数	改正後の限度額
〇人	二、四六八、〇〇〇円
一人以上	二、四六八、〇〇〇円に当該扶養親族等一人につき、三五〇、〇〇〇円(当該扶養親族等が所得税法に規定する老人控除対象配偶者、特定扶養親族又は、老人扶養親族であるときは、当該老人控除対象配偶者、特定扶養親族又は、老人扶養親族一人につき四五〇、〇〇〇円)を加算した額

現代 多才多藝物語

作・井上 慶典

のろま

努くんは、野球の大好きな少年です。学校で四年生から六年生まで一結になつて行うクラブ活動でも野球クラブに入っています。同じ五年生の巧くんはもうレギュラーになつて活躍しているというのに、努くんはまだ補欠にもなれないのです。早くうまくなつて巧くんのように活躍したいと思ひ、一生懸命練習するのですがなかなかうまくなりません。ですから、努くんたちの緑が丘小学校野球クラブがよその小学校の野球クラブと試合をするときも努くんはいつもレギュラーや補欠の選手の後で応援です。

今年の市内小学校野球大会では、緑が丘小学校野球クラブは巧くんや六年生の活躍で決勝戦まで勝ち進んで来ました。試合は大接戦です。七回表まで六対五で相手の第二小学校野球クラブのリードです。でも、みんな諦め

ずに頑張つてとうとう二死満塁までこぎつけました。次のバッターは巧くんです。ここでヒットが出れば緑が丘小学校野球クラブの逆転優勝ですが、出なければそのまま第二小学校野球クラブの優勝です。

「巧くん、頑張れ。でっかいのを頼むぞー」
努くんはありつたの大きな声で叫びました。巧くんはちよつと振り返つただけでそのままバッターボックスに向かいました。

「巧くん、頑張れー」
努くんはまた叫びました。

ピッチャーが投げました。いい球です。巧くんはバットを力一杯振りました。ボールは高く上がつてくんぐんのびて行きます。でも、相手チームの外野手も頑張りました。一生懸命走つてそのボールを捕つたのです。相手チームの応援団はみんな立ち上がつて拍手をして叫んだりして大喜びです。努くんも巧くんも悔しくてどうしようもありません。涙があたらあたら出てきます。努くんは、来年はきつとレギュラーになつて優勝するぞと心の中であいかいました。

次の日から努くんも巧くんの猛練習が始まりました。努くんがエラーをすると巧くんは遠慮なく怒鳴ります。

「のろま、もつと速く走れ」

「のろま、しっかりとつかめ」

でも、練習が終わるとふたりはとても仲よく

しました。努くんは、野球がうまくて自分の練習につきあつてくれる巧くんを尊敬していました。巧くんは心の優しい努くんが大好きだったので。

ふたりは遅くまで練習しました。努くんは、巧くんの言う「のろま」が「頑張れ」と同じ意味だということをよく知っていました。エラーをしつたり三振をしつたりすると「ほく、本当にのろまなのかな」と思うこともありました。でも、努くんは来年はきつとレギュラーになるんだ、そのためには今から一生懸命練習をしなければだめなんだと思つて頑張りました。家に帰つてからも足や腰を鍛えるために団地の回りを走りました。

「努つたら、勉強もしないで野球ばかり……」

お母さんはお父さんに言いました。

「いいじゃないか。勉強ができたつてからだが弱くっちゃ何もならない。それより元気で正直な人のほうがよっぽど世の中の役に立つさ。それに、今のあの頑張りが後になつてきつとあいつのためになるだろう」

お母さんは、うなずくように笑つて夕食の支度にと台所に行きました。

努くんは、夕食を食べてお風呂に入るともう眠くてなりません。テレビを見ていてもコックリコックリ居眠りをしてしまいます。

「まあ、この子つたら、早くベッドに行つて



k.k



寝なさい」

お母さんが言いました。努くんは睨み目をこすりながらヘッドに行く毎日です。

やがてサクラの花が咲き、努くんも六年生になりました。ある日、野球クラブの先生がみんなを集めて言いました。

「これから今年のメンバーを発表します。選手になった人もならなかった人も力を合わせて頑張ってください」

努くんは、胸がドキドキしました。努くんが遅くまで練習していたことを先生もよく知っていたからです。

「一番……。二番……。三番……」

巧くんは、四番打者で三塁手です。

「七番……。八番……。九番……」

ととうと努くんの名前はレギュラーの中にはありませんでした。

「まあいいや、あれだけ頑張ってたためだったのだからしかたがないや」と思ったそのときです。

「補欠、内山努くん」

と言う先生の声が聞こえました。家に帰ってお母さんに話すと、

「頑張ったね。お母さん、補欠にもなれないんじゃないかと思ってた。よかったね。おめでとっ」

と言って喜んでくれました。その夕食には

努くんの席に小さなケーキが置いてありました。お母さんが、お祝いだと言って買って来てくれたのです。お父さんは、

「あんなにへただったお前が補欠になったんだって。たいしたもんだね。これからも頑張れよ」

と言って励ましてくれました。努くんは、「あんまり補欠補欠って言わないでよ。でも、もしかすると試合に出られるかもしれないね」

と、うれしそうに言いました。その日の夕食はいつもよりずっとおいしく感じられました。

それからは、努くんは前よりも一生懸命練習しました。だって、いつ試合に出るか判らないものだから。

補欠になって自信がついたためか、努くんはめきめきうまくなりました。難しいゴロも捕れるようになりました。でも、ときどきエラーをして巧くんに怒鳴られます。

「のろま、ボールから目を離すなっ」

「のろま、もっと腰をおろせっ」

巧くんは、相変わらずチームで一番上手です。努くんはとでも捕れそうにないゴロを突々捕ってしまいます。今年こそ優勝だ。レギュラーも補欠も、選手でない人もみんなはりきっています。

市内小学校野球大会がだんだん近づいて来ました。PTAの人たちがお金を出し合って作ってくれたユニホームもできて来ました。

「頑張れよ。せつかく新しいユニホームを着たのに一回戦で負けちゃったんじゃないあかこ悪いよ」

ユニホームを届けてくれたおじさんが言いました。

いよいよ今日から市内小学校野球大会が始まります。空は朝から気持ちよく晴れ渡り、木々の葉が日光に輝いています。努くんは、朝早く起きて団地の中の広場をひと回り走って来ました。からだがむずむずするようになっていていけないのです。朝食を済ませてユニホームに着替えてグローブとバットを持つと気持ちが引き締まって、試合で活躍できそうな感じがしました。

「行ってきまーす」

努くんは元氣よくドアを開けました。

「気をつけるよ。頑張ってね」

お母さんの声も弾んでいるようです。

最初の相手は隣の団地の百合が丘小学校野球クラブです。第一回戦は五対〇で努くんたちのチームが勝ちました。でも、努くんには試合に出るチャンスはありませんでした。第二回戦でもチャンスはありませんでした。

今日は決勝戦です。相手は去年と同じ第二小学校野球クラブです。今年こそ優勝するぞ。

努くんも巧くんも、ほかの人たちもはりきっています。試合は今年も大接戦になりました。

去年と違うのは四対三で緑が丘小学校野球クラブがリードしていることです。七回裏、第二小学校野球クラブの攻撃は二死満塁でバッターは四番の強打者です。ここを守りければ緑が丘小学校野球クラブの優勝ですが、ヒッターが出れば第二小学校野球クラブの逆転優勝です。応援団のおばさんたちも一生懸命です。相手の応援団も負けはいけません。そのとき、監督の先生が立ち上がって大きな声で言いました。

「ショートを内山努くんに交代します」

努くんは自分の耳を疑いました。こんな大事なときにぼくを出さなんて。先生は、努くんの肩を叩きながらにこにこして言いました。

「落ち着いて、しっかりやって来なさい」

「はいっ」

努くんは自分を落ち着かせるようにしっかりと声で応えました。

バッターは、カニバットを振りました。

強烈な三塁ゴロです。

「しめた、これで優勝だ」

と巧くんが思った瞬間、ボールは巧くんの股の間を抜けました。

「しまった、エラーだ。負けた」

とたれもが思ったとき、白いボールが矢の

ように一塁に投げられました。

「アウトっ」

審判の右手が高く挙りました。巧くんが逃がしたボールを努くんが捕ったのです。緑が丘小学校の応援団はみんな立ち上がって拍手をしています。努くんは夢をみているような気持ちでした。

試合が終わった後で先生が努くんに言いました。

「君は一生懸命練習をしていたね。だから先生は君ならきつとやっつけてくれると信じていたんだよ」

その日の夕食には、努くんの席に前より大きなケーキが乗っていました。



現代イソップ物語は、今回をもちまして最終回とさせていただきます。ご愛読ありがとうございました。なお、作者の故井上慶典さんのお兄さんたち（群馬県在住）の手によって童話をまとめて本にする作業がすすめられています。本が発行されたら「東賢協」誌上で紹介する予定です。

のたまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの闘病記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽にかいて事務局へ送って下さい

友の会秋季旅行会 横浜遊覧

近來にない程の暑さだった八月も漸く終わり、九月に入つて、最初の日曜日の二日、友の会の旅行会が行われました。今年は、例年と少し趣向を変えて、近い所で、ゆつくり楽しみましょうというわけで、横浜を見物して、中華街で食事というコースを取る事になりました。参加者は、会員とその家族の方が四十名、病院から五名で、合計四十五名の人数となりました。



新小岩の横浜遊覧

当日は、朝から、残暑の日差しが強い中、八時少し前にはバスで、新小岩を出発しました。

当日は、朝から、残暑の日差しが強い中、八時少し前にはバスで、新小岩を出発しました。

調布病院腎友会

(府中)

村上 ひろ

体力の自信を確認 多摩部が修善寺にみかん狩り

ました。

途中ドライブインにより「みゆき」というホテルで食事と温泉に入りました。食事中は竹田さんが手品を見せて下さいました。びつくり本物です。とても上手でした。持ってきた品物も大変だったと思います。本当にご苦労様でした。

八王子郵便局前に集合して八時出発。私と佐伯さんは残りのお金を集めました。バスの中でゆられながら大変でした。計算をして終ったら相模湖の方まで来ていました。最後はどうとうあわずに竹田さんをお願いしました。初めて参加しましたが、私たち調布病院はカラオケぐらいですが、東腎協のバスの中はいつもゲームでわいていました。ゲームもいくつかが覚え

(私見ですが、男性共よりも、女性軍の方が、より活力に溢れていたようです。)

往復の車内では、ビンゴ・ゲームやカラオケなどもあり、会員相互の親睦が一層深まった、有意義な一日でした。

(新小岩クニック友の会・友の会通信第二号より)

八王子へつきました。

はじめは知らない人だった方も帰りはみんなお友達になりました。又今度参加したいと思います。よろしくお願ひいたします。

旅行費は最初はみんな集めた方がよいと思います。バスの中でこまかくもらうのは大変です。

長久保クリニック

佐藤 洋子

東腎協多摩ブロックは去る十月二十八日小春日和の日曜、バス日帰りで行った。参加者約五十名、バス一台はほぼ満員で八王子駅八時出発。中央高速にて河口湖I.C.、富士五湖有料道路、東名御殿場I.C.、沼津I.C.、そして修善寺へと一直線。

多摩は高尾山を一步外にあれば観光地の宝庫。相模湖あり、富士五湖あり、秀麗富士山ありで車窓を楽しませてくれる景観には事欠かない。昼頃目的地修善寺到着。「みゆき」なる中流ホテルで会席

料理の会食。しばし休憩の後、みかん山へと繰り出し、フレッシュな果物の臭いと豊富な酸素を満喫出来ました。

福路は日曜の故か若干の渋滞があり、予定より一時間遅れで全員無事帰着。私は透析十六年。家族旅行は時折行くが透析仲間と団体で赴いたのは初めてであった。当初は不安もあったが一日を車中やみかん山での遊歩が皆さんと出来たことは、体力の自信を確認出来て、自分なりに有意義に思った。次回もできれば参加したいと思つてゐる。



ジャンケンポン

あけぼの病院

佐々木トシ子

会員の皆様 こんにちは 私達多摩地区では十月の秋晴れの日、伊豆長岡へみかん狩りと温泉のバス旅行があり、参加させて頂きました。八王子より出発、早速自己紹介に始まりゲームやクイズと車中飽きる事なく笑いのうちに温泉に着きました。大広間では役員さんの手品を横目に料理に舌づつみ、趣味とはいえ鮮やかな芸に喝采、温泉では十三年間透析を受けた体をゆっくり湯舟に浸かり生きて居る喜びを友と語り励まし合いました。

帰りにはオレンジ色に染つたみかん畑に入りかりウムを心配しながら舌づつみ、楽しい一日でした。

旅行大好きな私はもう来年を心待ちにしています。思い出を有難う御座居ました。役員の方本当にお疲れ様で

ドライブ

個人会員 柳井 隆雄

私は透析を初めて二年十ヶ月、透析になれるまでいろいろなことがありまして、「こんな苦勞するなら」と何度か挫折いたしました。しかし、それを支えてくれたのはやはり女房でした。そのおかげで今日も今日と仕事と透析に頑張っております。

透析以来、どこにも出かけることがなく、出かけようとしても不安が先にたちおつくうになってしまいまして。しかし、今年から考えました。

和気あいあいの一日

東和病院腎友会

石川 みさ

十月二十八日、中央部の交流会でマザー牧場に出かけた。朝、八時に新宿駅前を出発し、途中バスの中でゲームやカラオケをしながら和気あ

いあいと過ごし、十一時七分（この時間は到着ゲームをやったので正確なのだ）にマザー牧場に着いた。空はぬける様な青空でとてもあたたかく良い天気になった。昼食はもちろんパーベキユーでとてもおいしかった。もちろん牛乳もアイスクリームもおいしかったですよ。

を交えました。三人の子供が成人したのを機にドライブ旅行をすることにしました。体重も一kgと増えず、データーもそれほど悪くありません。体調も悪くありません。そこで私たち夫婦は月に一、二回のペースで日帰り、又は一泊のドライブ旅行を楽しんでいます。ドライブを楽しんでおりますと自分が透析患者だと思えないほど元気になってまいります。二人で地図をみながら「弥次さん」「喜多」さんもまた楽しいものです。そして今度はどこへ行こうかと考えている今日此の頃です。

みんなでワイワイ焼きながら食べ、お腹一杯になったので、自由行動で方々を見て歩いた。サルビアとコスモスの花が満開で、特にサルビアの花はまっ赤なジュエーションをひいたようなそれはそれはみごとだった。

あつという間に帰る時間になってしまった。行きも帰りも道路はすいていてとてもスムーズに走れた。新宿には六時半つづき、次の交流会や行事にも元気で参加しようと思束し、頑張りましたよと分散した。本当に楽しい一日でした。幹事の皆様ご苦勞様でした。

近況便り

織本腎友会 外山 泰弘

会員の皆様お元気ですか。お互いそれぞれの生活の中で、透析をよりよい状態で取り入れる様、懸命に取り組んでおられることと思えます。私事で恐縮ですが、織本腎センターにて透析導入以来十五年を迎え様として居ります。清瀬市旭ヶ丘にある当セ



楽しそうな織本病院の人たち

ンターは全腎協が今年二〇周年を迎える様ですが、それに後れること約一年で都内でもその歴史は深く、その道のパイオニア的存在であることは施設と医療技術の常になんかを入っていることで、立証されてます。その過程にあっていくたの先輩達が患者活動に奔走され中央へのそして末端へのとパイ役としてご盡力されそれが脈々とうけつがれて今日に至っております。そこで手前みそとなりますが敢えて今年の我が腎友会の動きを皆様腎協会員の方々にお知らせ方々、いまだ至らざることを、いろんな視点から教えを頂けばと思うので

す。

今年に入り患者会と病院側の透析ライブ、こん和会を二回持ち、如何にしてよりよい環境づくりをなすべきか討論しお互いの立場をソフトなとらえ方で進んでいく様進行中です。野球大会、ボウリング大会、そして、バス旅行等、病院側の積極的支援をうけ全て終り今日は恒例のクリスマスパーティーを賑々しく行われ、こよいたのしい患者と職員が集いが愉快にそのとう尾を飾った次第です。

その他専任医師、院長を講師として三回の学習会をひらき、まず自分の病いの実態を追求し対処していくことを教えられたのです。

ところで十二月二日秩父のホテルに日帰りバス旅行を病院と共に企画二十四名の参加の許、東腎協事務局次長、草間様、竹田様より車中でのゲーム等のご指導を頂きより盛り上った旅行でした。紙上をかりて尚氏のご配慮にお礼を申し上げます。

さいごに私達会員は、上部

団体の東腎協、全腎協の役員の皆様方が我が身をかえりみずけん身的に一貫した福祉への活動を展開するにつけそれぞれの会員の心の中にありがとうの心をもとうではありませんか。

あの狭い事務所の中でまさに息のつまる様なきゆうくつさを感じ一沙その感をもった次第です。「初心忘るべからず」導入期の忍耐を心のよろどころとして自らを律しつつ明るい透析人生を展開して行きましょう。

三浦礼子さんの透

析20周年を祝う会

松和患者会 西新宿支部

糸賀 久夫

私達の患者会では、三浦さんが十一月二十七日をもち、最初に二十年を迎えることとなりました。

これまでの三浦さんの御舌をねきらい、私達患者の大きな励みになってきたことなどを考え、三浦さんを激励するために二十年を祝う会を行ないました。

祝う会は、十一月四日、四谷の主婦会館で行なわれまして、来賓として、東腎協会長の

泉山さんが出席されました。

また病院の稲田院長をはじめ、多くのスタッフや、旧都立大久保病院時代の患者を含め、約六十名が出席され、大変盛会でした。三浦さんは、旧都立大久保病院で透析を導入されましたが、その中で初代東腎協会長の故寺田さんと一緒に透析をしていたことです。

その頃から患者さんの世話



透析20年の三浦さんを囲んで

役等患者会の活動に熱心であり、二十周年は、これまでの長い御苦労と活躍の大きな節目になったことと思います。

治療に関しては、当時から今日まで透析の責任者として御活躍されてきました。稲田先生との出会いが大きかったことです。

また、新婚生活一年目にして透析に入られた三浦さんを今日まで支えてこられた、御主人の敏也さんの存在も忘れては、ならないと思います。

三浦さんには、昭和四十五年頃からの体験を話していただきました。透析の効率も悪く、厳しい食事制限で亡くなられる患者さんもあったそうです。

お話しは、具体的で大変わかりやすく、出席された、患者さんやスタッフのみなさんに、深い感銘をあたえるものでした。三浦さん、いつまでもお元気で頑張ってください。

熱の入った意見交換

全腎協関東ブロック会議開く

十二月一日、二日の両日東京の中野サンブラザで、八都府三十八名が参加して、関東ブロック会議が開催されました。

最初に開催地東京を代表して泉山会長から年々参加者が増え、議題も多く複雑になってきていますが、関東ブロック

各都府で力を合わせていきましようという挨拶があり、引き続き討議に入りました。最初に、全腎協の活動報告



東腎協会長あいさつ

があり、有料道路の内部障害者料金割引国会請願の結果、医療法「改正」について、全腎協事務局体制について、二十周年記念事業の進行状況について、電話相談事業の開始等についての報告がありました。次に各県からの報告がありました。

埼玉県からは、腎移植者の年金支給停止の事例が二件報告されました。幸い県との交渉で、二件とも年金が支給されるようになりましたが、今後このようなケースが出る

ことが予想されますので、役員でもう一度障害年金について学習をし、腎移植者の予測認定等について検討をし、県と積極的に交渉をしていくということになりました。

山梨県からは、県営の有料道路について、県腎友会独自で請願を行い、県からは良い返事をもらいましたが、最終

的には建設費の認可が必要なのですが認可がおりません。各都府でも、地元で請願をし、なんとか建設費の認可が取れるよう協力してほしいとの報告があり各都府で独自に請願をすることも確認しました。

千葉県からは、エリスロポエチンの副作用について各都府の現状を聞かせてほしいと言ったこと、各都府から報告がありまうこと、おもなものは新しい薬なので副作用について不明な点が多いこと、医師も経験が少なく、患者も安易にたよすぎるケースもある。薬の使用は慎重に対応し、早くガイドラインを作ってほしい。インホームドコンセン

全腎協は今年、二十周年を迎えますが、昨年の十二月一日、二日に開かれた関東ブロック会議(前述)で関東ブロックとしての対応について話し合われました。

七月に全腎協結成記念事業実行委員会が開かれ、東京は

トが増々重要になってきた。などの報告がありました。

長野県からは、八月に行われた青年交流集会所盛大に行われたという報告があり今後、青年交流集会所を続けて行くこと、来年度は茨城で開催することを確認しました。

東京からは、災害対策についての報告があり、地震発生時の後方支援がまだ整備されてなく、水不足の問題もあり今後運動を続けるという報告がありました。

この他にも多くの議題が討議され、次回の関東ブロック会議を長野県で開催することを確認し、二日間の会議は、無事終了しました。

二十周年を迎える全腎協

二十周年記念誌、埼玉は作品展、千葉がビデオ作成の担当が決まり、準備を進めています。

記念誌について泉山会長を委員長とする二十周年記念誌プロジェクト委員会を持たれ、検討を進めています。

全腎協としては機関誌で作品展の作品募集、カンパの呼び掛けを行っています。関東ブロック会議での全腎協からの報告ではあまり作品展の作品が集まっていないということです。

東腎協会員の中にも絵などの作品を出品する準備ができている方もあると思われまう。ここで、もう一度作品の募集要項について掲載いたします。

【趣旨】

五万六千人余の会員の中には、文化、芸術を仕事として活躍している会員も少なくない。発病後に様々な創作活動をはじめた会員も多い。こうした会員に自作に提供を受け展示する。これらの作品を通じて、患者に生きる勇気を与えることに役立てる。あわせて、腎疾患問題への市民権を得る機会ともする。

【募集作品】

絵画、彫刻、陶芸、写真、書、その他

【出展締切日】

一九九一年三月三十一日

事務局から

東腎協の年会費 4,200円に

全腎協分担金引き上げにつきましては、東腎協機関誌、全腎協機関誌などでお知らせしましたが、昨年五月に愛媛県松山市で開かれた全腎協総会において正式に決まりました。

これにともない東腎協では平成三年度納入分より東腎協会費を六〇〇円値上げさせていただき年会費一人当り四、二〇〇円(内全腎協分担金一八〇〇円)を納入して頂くことになりました。

各病院患者会におかれましてはこの一年間を全腎協分担金引き上げの説明などいろいろとご苦労されたことと思います。ありがとうございます。

全腎協は今年二十周年、東腎協は来年二十周年を迎えます。長年確立してきた透析を始めとする腎医療体制をこれからの会員の皆様と維持、発展させていきたいと思っております。今後共、ご理解、

ご協力をよろしくお願いいたします。

病院訪問

7/10 会員拡大で黒田病院・澤井医院訪問(笹川、川島)

21 東仁会(吉祥寺クリニック、城南クリニック、武蔵境駅前クリニック、三鷹北口病院)勉強会出席(森)

22 会員拡大で織本病院外山氏の紹介で、薫風園病院筋野氏と面談(竹田)

8/10 都立駒込病院腎不全センターを訪問し福田先生と面談、会員拡大と都立病院についての意見交換(森)

23 会員拡大で大田区・千葉医院、京浜病院、東京労災病院訪問(笹川、川島)

9/9 織本病院外山氏と共に患者会設立の件で薫風園筋野氏と面談(竹田)

18 会員拡大で東邦大学、城南総合病院、大森赤十字病院訪問(笹川、川島)

25 森) おかむら健クリニック訪問(元ライオンクラブ 献眼・献腎委員長岡村先生が浅草でクリニック開院)(泉山、森)

10/11 会員拡大で東邦大学病院訪問(森、川島)

21 あけぼのクリニック勉強会出席(森、竹田)

11/20 会員拡大で同友会クリニック、中野総合病院訪問(笹川、川島)

12/6 会員拡大で都医院、八木内科訪問(笹川、川島)

12/6 会員拡大による定期的な末組織病院訪問などで、会員数が三九一人増え四七六五人(昨年十二月末現在)になりました

御芳志
ありがとうございます

署名運動(協力)
ありがとうございます

名運動へのご協力ありがとうございます

いました。皆様の熱心な運動のおかげで昨年度を上回る勢いで著名、募金が集まっています。(一月五日現在)

新入会員紹介

よろしく

関剣児郎、寺内洪、板倉重俊、横山よね、石井利子、押山大作
東京厚生年金病院腎友会 (6人)

〒162 新宿区津久戸町5-1
東京厚生年金病院透析室内
薫風園腎友会
〒204 清瀬市梅園3-1-33
薫風園病院内

〈編集後記〉

今年の三が日は天気はバツとせず、透析(二日)以外にはどこにも出掛けず家にいた。今年もまた箱根駅伝を全部見えました。四年前に両ひざを骨折し、もうずっととびはねることはできないが、むかしはマラソンが得意だった。今はだれも信じてくれない。残念だ!

でもむかしは考えたこともない編集をやっている。ありがたいことだ?

(草間)